



行政無線情報は電話でも

防災行政無線が聞き取りにくい場合は
☎(48)7030 へ問い合わせてください。最新
のメッセージを聞くことができます。

特集

風水害に備えて

伊勢湾台風から50年

防災訓練に550人参加



真剣に土のう積み訓練に取り組む参加者

防災への意識改革

117

拡大版

安全
で
住
み
よ
い
ま
ち
づ
く
り

ニュース

防災交通課
☎(48)111
(内208)

「伊勢湾台風五十年阿久比町防災訓練」を八月二十三日、町多目的広場（阿久比中学校西）で行いました。伊勢湾台風の被災から半世紀が経過しました。被災から学んだ経験や教訓を風化させてはなりません。伊勢湾台風襲来から五十年という節目



豪雨を体験する参加者

を迎える今年、これまで以上に「災害に強い阿久比町」を目指すことを目的に、例年よりも規模を拡大した防災訓練を実施しました。
訓練には各地区の自主防災会、町赤十字奉仕団、あいち防災リーダーなど総勢約五百五十人が参加しました。
発生が予想されている東海地震・東南海地震が連動して発生し、伊勢湾台風並みの豪雨で河川がはんらんし、町内で多くの死傷者と被害が生じた想定。自主防災会や団体を四班に分けて、伊勢湾台風クラスの豪雨を体験する訓練、土のうを作り積み上げていく訓練、災害救援ボランティアセンター立ち上げの運営訓練などを順番に行っていました。
また、要援護者対策として自主防災会長、防災委員、民生児童委員が

経験者の記憶から「伊勢湾台風」は消え去ることはありません。自然災害はいつ起こるか分かりません。日ごろから防災に対する意識を一人ひとりが高めて、いざというときに備えてください。

「豊が宙に浮くほどのすごい風で、太い松が家に倒れてきました。当時中学一年生で、台風が去った後に上級生が校舎の屋根に上って瓦を直していたのを記憶しています」(六十二歳男性)

「夜の七時ころから停電して、情報源が何もなく、台風がいつ通り過ぎていくのか分からず不安でした。風が強くて家族で雨戸を押さえました。眠れない夜でした」(五十八歳男性)

「東海市で被災しました。川の堤防が切れて周りの家がすべて水につかりました。近くで七十人の方が亡くなり、同級生も三人犠牲になりました。姉と給水の水をもらいにいく途中、犠牲者の遺体が見えるのの上に並ぶ姿や川に浮かぶ姿を見ました。今もあの恐ろしい光景は忘れることができません」(五十九歳女性)

伊勢湾台風の思い出を聞きました